

2024年度 第1四半期決算説明資料

対象期間：2024.4.1-6.30

2024年8月9日

明治ホールディングス株式会社

IR部を管掌しております、CFOの菱沼でございます。

それでは、2024年度 第1四半期決算について、当社ホームページに開示しました「第1四半期決算説明資料」にそってご説明いたします。

本資料をご覧いただいている方は、1ページ目をご覧ください。

2024年度 第1四半期 連結決算のハイライト

| (億円) | 23年度 1Q実績 | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 | 上期計画 進捗率 | 24年度 上期計画 |
|----------------------|--------------|--------------|---------------|-------------|--------------|
| 売上高 | 2,627 | 2,787 | +6.1% +159 | 49.6% | 5,615 |
| 営業利益 | 194 | 204 | +5.1% +10 | 56.9% | 360 |
| 営業利益率 | 7.4% | 7.4% | △0.1pt | — | 6.4% |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 115 | 139 | +20.3% +23 | 66.4% | 210 |
| E P S | 41.59円 | 50.23円 | +8.64円 | — | 75.27円 |

● 1Q実績：増収増益

- ・ 食品は増収減益、医薬品は増収増益
- ・ 四半期純利益は増益。税金費用の減少が主な要因

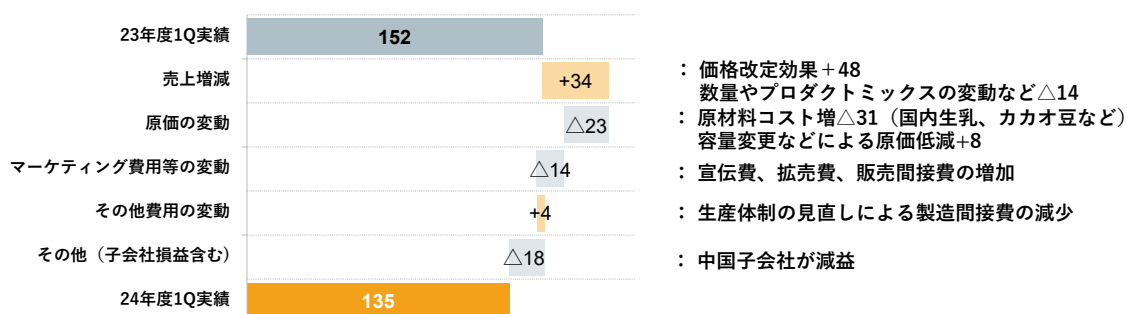
第1四半期の連結売上高は2,787億円、前年同期比6.1%増となりました。
営業利益は204億円、前年同期比5.1%増となりました。

四半期純利益は139億円、前年同期比20.3%増となりました。
税金費用の減少が主な要因であります。

食品：2024年度 第1四半期 決算概要

| (億円) | 23年度 1Q実績 | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 | 上期計画 進捗率 | 24年度 上期計画 |
|------|--------------|--------------|---------------|-------------|--------------|
| 売上高 | 2,187 | 2,259 | +3.3% +72 | 49.8% | 4,533 |
| 営業利益 | 152 | 135 | △11.0% △16 | 45.1% | 300 |

営業利益 増減分析



続いて、資料2ページ。食品セグメントの決算概要です。

売上高は2,259億円、前年同期比3.3%増となりました。

営業利益は135億円、前年同期比11%減となりました。

価格改定によって原材料コストアップの影響を吸収しましたが、
宣伝費や拡売費などのマーケティングコストの投入、
中国子会社の減益などにより、
セグメント全体で減益となりました。

食品：2024年度 第1四半期 事業別営業利益 増減分析

| (億円) | 食品全体 | デューリー | カカオ | ニュートリション | フードソリューション | その他 |
|-----------------------|------------|-------|-----|----------|------------|-----|
| 23年度1Q営業利益 | 152 | 52 | 32 | 38 | 25 | 4 |
| 売上増減 | +34 | +10 | +4 | +5 | +15 | +1 |
| 原価の変動 | △23 | △12 | △10 | +7 | △9 | +1 |
| 経費等の増減 | △10 | +1 | +1 | △9 | △5 | +1 |
| マーケティング費用等の変動 | △14 | △4 | △2 | △4 | △4 | △0 |
| その他費用の変動 (内、研究開発費) | +4 (+0) | +5 | +3 | △5 | △1 | +2 |
| その他 (子会社損益など) | △18 | △2 | △5 | +1 | △10 | △2 |
| 24年度1Q営業利益 | 135 | 48 | 22 | 41 | 16 | 5 |

3 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

事業別の利益増減要因をご説明します。3ページ目をご覧ください。

「売上増減」は価格改定の実施により全事業において増益要因となりました。内訳は価格改定効果がプラス48億円、数量やプロダクトミックスの影響がマイナス14億円です。

フードソリューション事業は数量増となったことで大きな増益となりました。

「原価の変動」の内訳は、原材料コストの上昇が31億円、容量減などによる原価低減効果が8億円となっています。

前期の期中改定の乳価とカカオ豆の相場上昇によるコストアップが大半を占めており、デューリー、カカオ、フードソリューションの各事業でマイナス影響が大きくなりました。

ホエイ価格の下落により、ニュートリション事業を中心に増益要因となりましたが、下期はコストアップとなる見込みです。

「マーケティング費用等の変動」は14億円の減益要因となりました。デューリー事業を中心に宣伝費が増加したことや、各事業で拡売費が増加したことが要因です。

「その他・子会社損益」はトータルで18億円の減益要因となりました。主に中国の子会社で新工場稼働によりコストが増加したことが影響しました。

食品：2024年度 第1四半期 事業概況

■ デイリー事業

| (億円) | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 |
|------|--------------|-------------|
| 売上高 | 672 | △0.0% △0 |
| 営業利益 | 48 | △5.9% △3 |

● 市場 (1Q)

- ヨーグルト：前年並み 牛乳：+5~6%

● 売上高

- 市販向けR-1は前年並みだが、宅配チャネルの落ち込みがプロバイオティクス全体の減収に影響
- ヨーグルトはブルガリアプレーンが好調だが、23年9月末のブルガリアドリンク大容量 (900g)の終売により前年並みに留まる
- 海外は中国におけるリバイバルプラン実行により減収

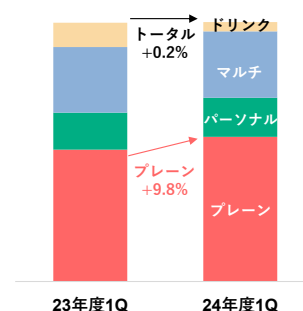
● 営業利益

- 国内は価格改定効果で原材料コスト増を吸収するも、数量減で減益
- 海外は中国の減収により減益

● 主要カテゴリー別売上高実績※

| 24年度1Q 売上高前年同期比 | |
|--------------------|-------|
| プロバイオティクス | △5.7% |
| ヨーグルト | △0.6% |
| 牛乳 | +5.3% |

● ブルガリアブランドタイプ別売上実績※



※ (株) 明治単体、収益認識基準適用前実績

次に、各事業の概況についてご説明いたします。

資料4ページをご覧ください。

まずは、デイリー事業です。

プロバイオは、市販のR-1は、昨年10月の「R-1 the GOLD」の発売などもあり前年並みですが、宅配チャネルが落ち込んだことや、LG21の不調により、全体としては減収となりました。

ヨーグルトは前年並みとなりました。主力のブルガリアブランドで、4月発売の高付加価値品「HOME MADE STORY」の寄与もあり、プレーンタイプが伸長したことで、大容量のドリンクタイプの終売影響をカバーしました。

牛乳は、価格改定効果もあり増収となりました。特に小容量が好調でプロダクトミックスの改善も進んでいます。

営業利益は、原材料コストアップの影響を価格改定効果によりカバーしましたが、プロバイオの数量減の影響と中国の減益により、事業全体では減益となりました。

海外業績の詳細に関しては、後ほど別のスライドでまとめてご説明します。なお、連結財務諸表のより適正な開示を図るため、当期より海外子会社の決算日を12月末から3月末に変更したことで、1Qの対象期間は当期4-6月に対して、前期は1-3月となっております。

食品：2024年度 第1四半期 事業概況

■ カカオ事業

| (億円) | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 |
|------|--------------|--------------|
| 売上高 | 373 | +7.1% +24 |
| 営業利益 | 22 | △29.2% △9 |

- 市場（1Q）
 - ・ チョコレート：+2～3% グミ：+11～12%
- 売上高
 - ・ チョコレートは価格改定に加えて、「チョコレート効果」など主力品が好調
 - ・ グミは一部商品の終売もあり減収
 - ・ 海外は米国でmeijiブランド品が大きく伸長
- 営業利益
 - ・ 国内は価格改定による数量減と終売品影響により減益
 - ・ 海外は中国の新工場稼働によるコスト増により減益

■ ニュートリション事業

| (億円) | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 |
|------|--------------|---------------|
| 売上高 | 305 | +11.0% +30 |
| 営業利益 | 41 | +10.3% +3 |

- 市場（1Q）
 - ・ スポーツプロテイン（飲料）：+約8%
- 売上高
 - ・ 「ザバス」シリーズは粉末・飲料ともに伸長
 - ・ 海外はベトナムの乳幼児ミルクが伸長
- 営業利益
 - ・ 国内は「ザバス」シリーズの伸長と、原材料コストの減少により増益
 - ・ 海外は新市場開拓費用増により減益

続いて、資料5ページ、カカオ事業についてご説明します。

チョコレートは、価格改定効果に加え、高カカオチョコのTV放送の影響やインバウンド需要により、「チョコレート効果」やきのこたけのこシリーズが好調に推移し増収となりました。

一方、グミは市場拡大の中、収益性確保のための商品整理や生産体制の変更を進めた影響で減収となりました。今後は商品ラインアップを強化し、売上拡大を図ります。

営業利益は、価格改定効果により原材料コストアップの影響を吸収したものの、終売による数量減が発生したことや、中国の新工場稼働によりコストが増加したことが影響し減益となりました。

続いて、ニュートリション事業です。

スポーツプロテインは、特にザバスミルクがCVSを中心に販促を強化したことで大幅に伸長しました。

営業利益は、スポーツプロテインの増収効果に加え、原材料コストの低下により増益となりました。

食品：2024年度 第1四半期 事業概況

■ フードソリューション事業

| (億円) | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 |
|------|--------------|--------------|
| 売上高 | 481 | +2.0% +9 |
| 営業利益 | 16 | △36.4% △9 |

● 売上高

- BtoBはクリームやカカオが提案強化による取り扱い拡大で伸長
- フローズンデザートは主力品と付加価値型新商品が増収に寄与
- 海外は業務用牛乳・クリーム事業が大手カフェチェーンのシェア拡大と新規取引先獲得で大幅に伸長

● 営業利益

- 国内はフロースンデザートの増収などにより増益
- 海外は中国の新工場稼働によるコスト増により大幅減益

■ その他事業

| (億円) | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 |
|------|--------------|--------------|
| 売上高 | 426 | +2.0% +8 |
| 営業利益 | 5 | +29.8% +1 |

● 売上高

- 糖類を扱う子会社の増収が寄与

● 営業利益

- 原材料コストの減少などにより増益

次に、資料6ページ、フードソリューション事業です。

こちらの事業には、BtoBと市販のフロースンデザートやチーズなどが含まれます。

BtoBは提案メニューの強化などに取り組み、新規採用や取扱数量の増加に成功したことで、クリームやカカオを中心に伸長しました。

フロースンデザートは、主力の「エッセルスーパーカップ」が好調に推移しました。100%+勝製造の乳製品で作られた新商品「Dear milk」も増収に寄与しました。

営業利益は、フロースンデザートの増収効果があったものの、中国のBtoB事業とアイスクリーム事業における新工場稼働によるコスト増加により、事業全体では減益となりました。

その他事業は記載の通りです。

食品：2024年度 第1四半期 事業概況

■ 海外事業

| (億円) | | 23年度 1Q実績 | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 | 上期計画 進捗率 | 24年度 上期計画 |
|------|------|--------------|--------------|---------------|-------------|--------------|
| 中国 | 売上高 | 60 | 64 | +6.8% +4 | 41.8% | 154 |
| | 営業利益 | △3 | △21 | — △18 | — | △28 |
| アジア | 売上高 | 36 | 68 | +89.0% +32 | 50.9% | 133 |
| | 営業利益 | 2 | 5 | +129.8% +3 | 87.6% | 6 |
| 欧米 | 売上高 | 77 | 97 | +25.9% +20 | 58.3% | 166 |
| | 営業利益 | 6 | 3 | △42.7% △2 | 80.8% | 4 |
| 海外計 | 売上高 | 184 | 227 | +23.4% +43 | 52.6% | 431 |
| | 営業利益 | 0 | △24 | — △24 | — | △32 |

● 中国

- 市販用牛乳・ヨーグルトはリバイバルプラン実行に伴う販売先の絞り込みにより減収減益
- 業務用牛乳・クリームは主力カフェチェーンのシェアアップと新規顧客獲得で増収。新工場稼働によるコスト増により減益
- 菓子は消費低迷により減収だが6月から回復傾向。新工場稼働によるコスト増により減益
- アイスクリームは増収だが天候不順による代理店在庫増で2Q以降は減収見込み。新工場稼働によるコスト増により減益

● アジア

- ベトナムの乳幼児ミルクが伸長し増収増益
- シンガポールの日本向け調整品が増収だが利益には影響なし

● 米国

- MLB広告など積極的プロモーションにより明治ブランド品のチョコスナックが好調で増収
- 生産能力増強投資により減価償却費が増加し減益

続いて、資料7ページ。

エリア別の海外事業の業績についてご説明いたします。

中国は、市販用牛乳・ヨーグルト事業でリバイバルプランに基づく収益改善に取り組んでいます。1Qについては不採算客先や取引条件の見直しなどを実行したことから、減収減益となりました。今年度は同様の傾向が続きますが、限界利益率は改善傾向にあります。来年度での回復に向けて着実に進めてまいります。業務用牛乳・クリーム事業は、大手カフェチェーンにおけるシェアアップなどで売り上げが拡大しましたが、営業利益は、新工場稼働によるコスト増により減益となりました。

菓子事業は、減収ですが、6月以降徐々に回復しています。特にホールセールチャンネルにおいて、ナッツチョコが好調です。営業利益は、新工場の稼働によるコスト増により減益となりました。

アイスクリーム事業は、前期1-3月との比較では増収ですが、現地の天候不順により市場が落ち込み、当社も大きく影響を受けています。営業利益についても、新工場稼働によるコスト増により減益となりました。

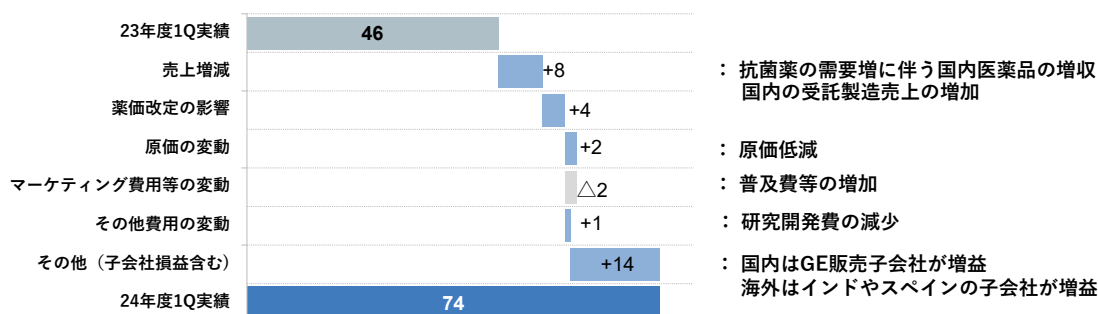
アジアは、ベトナムの乳幼児ミルクが好調で増収増益です。前期に代理店の在庫調整により落ち込んだ反動から大きく売り上げを伸ばしています。

米国は、新規開拓やプロモーション強化が奏功し、明治品のチョコスナックを中心に好調な販売状況となっておりますが、生産能力増強に伴い減価償却費の負担が増加したことから減益となりました。

医薬品：2024年度 第1四半期 決算概要

| (億円) | 23年度 1Q実績 | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 | 上期計画 進捗率 | 24年度 上期計画 |
|------|--------------|--------------|---------------|-------------|--------------|
| 売上高 | 441 | 529 | +19.8% +87 | 48.7% | 1,086 |
| 営業利益 | 46 | 74 | +61.2% +28 | 87.0% | 85 |

営業利益 増減分析



続いて、資料8ページ。医薬品セグメントです。

売上高は529億円、前年同期比19.8%増となりました。

営業利益は74億円、前年同期比61.2%増となりました。

売上増減は、抗菌薬、血漿分画製剤の増収や国内の受託製造売上の伸長により増益要素となりました。

薬価改定の影響は、抗菌薬のプラス改定により増益要素となりました。

原価の変動についても増益要素となりました。

一方、コスト面では、研究開発費の減少があったものの、国内事業における普及費の増加があり、減益要素となりました。なお、研究開発費の進捗は想定通りであり、通期では期初計画通り前年から大幅に増える見込みです。

子会社損益は大きな増益要素となりました。

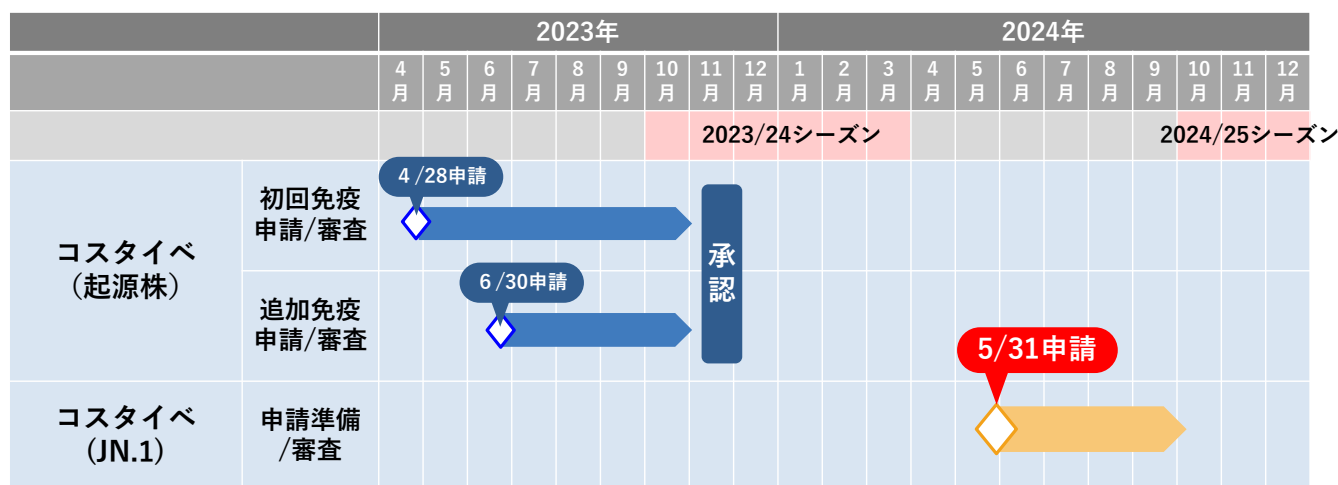
国内では、ジェネリック医薬品販売会社子会社が増益となりました。

ファルマ本体から品目移管が完了したことによる増収が寄与しました。

海外では、インドやスペインの子会社が増益となりました。増収に加え円安効果もメリットとなりました。

営業利益の増減分析や事業別の概況は、20ページ以降の参考資料に記載しておりますので、そちらをご参照ください。

2024/25シーズンの流行株（JN.1）ワクチン上市に向け、5月31日に一部変更承認申請



続いて、レプリコンワクチンの承認申請状況をご説明します。
9ページ目をご覧ください。

レプリコンワクチン「コスタイベ」につきましては、本年5月31日に一部変更承認申請を行いました。

順調にいけば、今年秋冬シーズンの上市となる見込みです。

上市タイミングにおける接種環境や単価など不透明な部分はまだまだありますが、有効性と安全性には自信を持っています。

定期接種化されることで、第一選択のコロナワクチンになりうると考えています。

「コスタイベ」の業績貢献は、医薬品セグメントの今期250億円の営業利益目標の達成に向けた重要なファクターとなっております。引き続き上市に向けて最大限の努力を続けていきます。

2024年度計画：上期・通期ともに変更なし

| (億円) | 23年度実績 | | 24年度計画 | | | |
|---------------------|---------|---------|--------|----------------|--------|----------------|
| | 上期 | 通期 | 上期 | 前年同期比 | 通期 | 前期比 |
| 売上高 | 5,460 | 11,054 | 5,615 | +2.8% +154 | 11,590 | +4.8% +535 |
| 営業利益 | 444 | 843 | 360 | △19.0% △84 | 860 | +2.0% +16 |
| 営業利益率 | 8.1% | 7.6% | 6.4% | △1.7 pt | 7.4% | △0.2 pt |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 279 | 506 | 210 | △24.8% △69 | 500 | △1.3% △6 |
| EPS | 100.13円 | 181.64円 | 75.27 | △24.86円 | 183.23 | △1.59円 |
| 1株当たり配当金 | 47.5円 | 95円 | 50円 | +2.5円 | 100円 | +5円 |
| 総還元性向 | — | 52.3% | — | — | 114.6% | +62.3 pt |
| ROE | — | 6.9% | — | — | 7.0% | +0.1 pt |
| ROIC | — | 6.2% | — | — | 7.0% | +0.8 pt |
| 設備投資額 | 250 | 534 | 391 | +56.2% +140 | 770 | +44.2% +236 |
| 営業CF | 258 | 1,079 | — | — | 600 | △44.4% △479 |
| フリーCF | 105 | 833 | — | — | 10 | △98.8% △823 |

10 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

最後に、資料10ページをご覧ください。
今期の見通しについてです。

第1四半期の業績は、グループ全体では上期・通期計画に対して
堅調に進捗している状況となっておりますので、現時点では、
5月に発表した期初計画数値に変更はありません。

食品では、カカオ豆を中心とした原材料コスト高騰の影響を受ける中、
チョコレートの価格改定の定着やプロバイオの売上回復に加え
B to B事業での伸長を目指します。
そして、中国事業のリバイバルプランの着実な実行に引き続き取り組み、
利益目標の達成につなげてまいります。

医薬品ではワクチン事業がポイントです。
第2四半期からはじまるインフルエンザワクチンの早期出荷に取り組む
ことに加え、下期に計画しているレプリコンワクチン「コスタイベ」の
上市を着実に遂行することを目指しています。

以上で私からの説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。



参考資料

2024年度 第1四半期 連結経営成績

| (億円) | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 | 主な内容 |
|----------------------|--------------|---------------|---|
| 売上高 | 2,787 | +6.1% +159 | — (詳細はP1-2, P8参照) |
| 営業利益 | 204 | +5.1% +10 | — (詳細はP1-2, P8参照) |
| 営業外収益 | 14 | +5.3% +0 | ・為替差益 (+1) ・受取配当金 (△1) |
| 営業外費用 | 12 | △27.7% △4 | ・持分法による投資損失 (△1) |
| 経常利益 | 207 | +8.0% +15 | — |
| 特別利益 | 35 | △35.1% △19 | ・関係会社株式売却益 (△27) ・固定資産売却益 (△13) ・投資有価証券売却益 (+27) |
| 特別損失 | 21 | +4.5% +0 | ・固定資産廃棄損 (+10) ・固定資産圧縮損 (△5) ・関係会社株式売却損 (△5) |
| 税金等調整前 四半期純利益 | 221 | △2.0% △4 | — |
| 法人税等 | 77 | △23.4% △23 | — |
| 非支配株主に 帰属する四半期純利益 | 4 | △49.7% △4 | — |
| 親会社株主に帰属 する四半期純利益 | 139 | +20.3% +23 | — |

2024年度 第1四半期 連結財政状態

| (億円) | 24年6月末 実績 | 前期末比 | 主な内容 |
|-----------------|--------------|----------------|---|
| 流動資産 | 5,566 | △1.1% △63 | ・現金及び預金 (△159) ・商品及び製品 (+90) |
| 固定資産 | 6,460 | +0.6% +37 | ・機械装置及び運搬具 (純額) (+27) ・建物及び構築物 (純額) (+15) |
| 資産合計 | 12,027 | △0.2% △25 | — |
| 流動負債 | 3,171 | △1.6% △51 | ・未払法人税等 (△93) ・支払手形及び買掛金 (△59) ・賞与引当金 (△47) ・未払費用 (△38) ・コマーシャル・ペーパー (+200) |
| 固定負債 | 947 | △0.4% △3 | ・長期借入金 (△9) |
| 負債合計 | 4,119 | △1.3% △55 | — |
| 株主資本 | 6,800 | △1.5% △103 | ・自己株式 (△101) |
| その他の包括利益 累計額 | 694 | +23.6% +132 | ・為替換算調整勘定 (+149) |
| 非支配株主持分 | 412 | +0.0% +0 | — |
| 純資産合計 | 7,907 | +0.4% +29 | — |
| 有利子負債 | 689 | +38.1% +190 | ・コマーシャル・ペーパー (+200) |
| 自己資本比率 | 62.3% | +0.4pt | — |

2024年度 第1四半期 連結キャッシュフロー

| (億円) | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 | 主な内容 |
|-------------|--------------|-------|--|
| 営業キャッシュフロー | △194 | △218 | <ul style="list-style-type: none"> ・仕入債務の増減額 (△59) ・棚卸資産の増減額 (△48) ・法人税等の支払額 (△30) ・投資有価証券売却損益 (△27) |
| 投資キャッシュフロー | 97 | +154 | <ul style="list-style-type: none"> ・投資有価証券の売却による収入 (+196) |
| 財務キャッシュフロー | △61 | △286 | <ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の純増減額 (△379) ・自己株式の増減額 (△107) ・コマーシャルペーパーの増減額 (+200) |
| フリーキャッシュフロー | △96 | △64 | — |

2024年度 第1四半期 連結営業利益増減分析

| (億円) | 連結 | 食品 | 医薬品 | 他 |
|--------------|--------|-----|-----|----|
| 23年度1Q実績 | 194 | 152 | 46 | △3 |
| 売上増減 | +42 *1 | +34 | +8 | — |
| 業価改定の影響 | +4 | — | +4 | — |
| 原価の変動 | △21 *2 | △23 | +2 | — |
| 経費等の増減 | △11 *3 | △10 | △1 | — |
| その他(子会社損益含む) | △5 | △18 | +14 | △1 |
| 24年度1Q実績 | 204 | 135 | 74 | △4 |

*1: 価格改定効果を含む

*2: 主な内訳 【食品】 原材料コスト増(国内生乳、カカオ豆など) △31、その他(容量変更など) +8
【医薬品】 原価低減+2

*3: 主な内訳 【食品】 マーケティング費用等の変動△14、その他費用の変動+4
【医薬品】 マーケティング費用等の変動△2、その他費用の変動+1

食品：事業別売上高・営業利益

(億円)

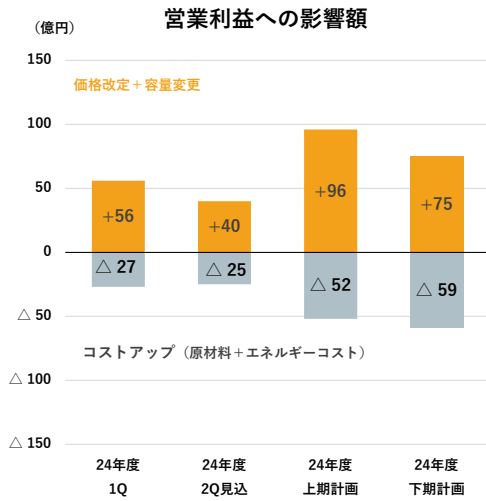
| | | 23年度 1Q実績 | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 | 上期計画 進捗率 | 24年度 上期計画 |
|------------|------|--------------|--------------|---------------|-------------|--------------|
| デイリー | 売上高 | 673 | 672 | △0.0% △0 | 49.2% | 1,367 |
| | 営業利益 | 52 | 48 | △5.9% △3 | 43.8% | 111 |
| カカオ | 売上高 | 348 | 373 | +7.1% +24 | 52.8% | 707 |
| | 営業利益 | 32 | 22 | △29.2% △9 | 79.0% | 29 |
| ニュートリション | 売上高 | 274 | 305 | +11.0% +30 | 52.1% | 586 |
| | 営業利益 | 38 | 41 | +10.3% +3 | 40.7% | 103 |
| フードソリューション | 売上高 | 472 | 481 | +2.0% +9 | 46.8% | 1,029 |
| | 営業利益 | 25 | 16 | △36.4% △9 | 30.8% | 52 |
| その他 | 売上高 | 418 | 426 | +2.0% +8 | 50.6% | 843 |
| | 営業利益 | 4 | 5 | +29.8% +1 | 167.6% | 3 |
| うち、海外 | 売上高 | 184 | 227 | +23.4% +43 | 52.6% | 431 |
| | 営業利益 | 0 | △24 | — △24 | — | △32 |

食品：2024年度 第1四半期 主力品の売上動向

| (億円) | 23年度 1Q実績 | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 | 上期計画 進捗率 | 24年度 上期計画 |
|----------------------|--------------|--------------|-------|-------------|--------------|
| ヨーグルト | 197 | 196 | △0.6% | 49.7% | 394 |
| プロバイオティクス ヨーグルト | 239 | 226 | △5.7% | 47.4% | 475 |
| 市販チーズ | 72 | 66 | △8.5% | 50.1% | 132 |
| チョコレート | 213 | 231 | +8.8% | 54.3% | 426 |
| 乳幼児ミルク・流動食 | 172 | 170 | △1.6% | 48.0% | 354 |
| スポーツ栄養 (ザバスミルク含む) | 127 | 135 | +6.3% | 48.0% | 281 |
| 市販・宅配牛乳 | 183 | 192 | +5.3% | 50.7% | 379 |
| 市販アイスクリーム | 117 | 128 | +9.4% | 45.3% | 282 |

※収益認識基準は適用していません

食品：コストアップへの対応

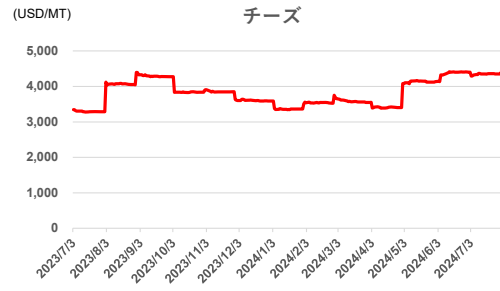


- 1Qは価格改定などにより原材料コスト増の影響を吸収

● 23年度～24年度の主な価格改定

| | | |
|-------|-------------|--------|
| 23年4月 | チョコレート・グミ | +5-10% |
| | ヨーグルト | +4-6% |
| | プロバイオティクス | +4% |
| | チーズ | +6-13% |
| | ザバス (粉末) | +4-5% |
| 5月 | ザバスマルク | +2-7% |
| | 粉ミルク | +約8% |
| 6月 | 市販流動食 | +4-9% |
| | チョコレート・グミ | +8% |
| 8月 | ヨーグルト | +1-3% |
| | 牛乳 | +4-11% |
| 10月 | チョコレート・グミ | +4-24% |
| 12月 | クリーム | +約4% |
| | バター | +約7% |
| 24年6月 | チョコレート・グミ | +3-33% |
| 9月 | アイスクリーム | +5-11% |
| 10月 | チョコレート・スナック | +6-31% |

主要輸入原料相場の動向



医薬品：2024年度 第1四半期 事業別営業利益 増減分析

| (億円) | 医薬品 全体 | 国内 | 海外 | ワクチン・動物薬 |
|-----------------------|------------|-----|-----|----------|
| 23年度1Q営業利益 | 46 | 39 | 17 | △10 |
| 売上増減 | +8 | +10 | +2 | △4 |
| 薬価改定の影響 | +4 | +4 | - | - |
| 原価の変動 | +2 | +2 | +1 | △0 |
| 経費等の増減 | △1 | △7 | +0 | +6 |
| マーケティング費用等の変動 | △2 | △3 | △0 | +1 |
| その他費用の変動 (内、研究開発費) | +1 (+2) | △4 | +0 | +5 |
| その他 (子会社損益など) | +14 | +13 | +11 | △9 |
| 24年度1Q営業利益 | 74 | 61 | 30 | △17 |

医薬品：事業別売上高・営業利益

| | | (億円) | | | | |
|----------|------|--------------|--------------|---------------|-------------|--------------|
| | | 23年度 1Q実績 | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 | 上期計画 進捗率 | 24年度 上期計画 |
| 国内 | 売上高 | 245 | 284 | +15.7% +38 | 53.6% | 531 |
| | 営業利益 | 39 | 61 | +53.9% +21 | 84.0% | 73 |
| 海外 | 売上高 | 132 | 186 | +40.4% +53 | 58.5% | 319 |
| | 営業利益 | 17 | 30 | +76.4% +13 | - | △4 |
| ワクチン・動物薬 | 売上高 | 63 | 58 | △7.9% △5 | 24.6% | 236 |
| | 営業利益 | △10 | △17 | - △6 | - | 16 |

医薬品：2024年度 第1四半期 事業別概況

■ 国内事業

| (億円) | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 |
|------|--------------|---------------|
| 売上高 | 284 | +15.7% +38 |
| 営業利益 | 61 | +53.9% +21 |

- 売上高
 - ・ 抗菌薬「スルバシリン」「タゾピペ」に加え、血漿分画製剤や国内の受託製造の売上も大幅に増加
- 営業利益
 - ・ 販売数量増に加え、薬価改定の下支えとGE販売子会社の増益が寄与

■ 海外事業

| (億円) | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 |
|------|--------------|---------------|
| 売上高 | 186 | +40.4% +53 |
| 営業利益 | 30 | +76.4% +13 |

- 売上高
 - ・ 為替影響に加え、インドやスペインの子会社が好調に推移
- 営業利益
 - ・ インドやスペインの子会社の増収による増益

医薬品：2024年度 第1四半期 事業別概況

■ ワクチン・動物薬事業

| (億円) | 24年度 1Q実績 | 前年同期比 |
|------|--------------|-------------|
| 売上高 | 58 | △7.9% △5 |
| 営業利益 | △17 | - △6 |

- 売上高
 - ・ 4種混合ワクチンの減収
 - ・ 前期に発生した受託収入が当期は未発生
- 営業利益
 - ・ 前期に発生した受託収入が当期は未発生
 - ・ 子会社の研究開発費の増加

医薬品：開発パイプラインー1

| | 開発コード名（一般名） | 薬効/作用 | 予定適応症 | 開発段階 |
|-------------|------------------------|----------------------------|---|---|
| 感染 領域 | OP0595* (ナキユバクタム) | β-ラクタマーゼ阻害薬 | カルバペネム系抗菌薬に耐性を示す菌株による各種感染症 | Phase III（日本・海外）** |
| 免疫 領域 | KD-380 | 血漿分画製剤 | 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（CIDP）患者及び多巣性運動ニューロパチー（MMN）患者の急性期治療、維持療法（免疫グロブリン製剤） | Phase III（日本） |
| 新 領 域 | ME3208 (ベルモスジル) | ROCK2阻害剤 | 慢性移植片対宿主病(cGVHD)治療薬 | 発売（日本）：製品名レズロック錠200mg (2024年5月22日発売) 申請（韓国・台湾・タイ） |
| | DMB-3115 | バイオ後続品 | 尋常性乾癬/関節症性乾癬/クローン病 /潰瘍性大腸炎 | 申請（海外） Phase I（日本） |
| | HBI-8000 (ツジジノスタット) | ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) 阻害剤 | 切除不能または転移性悪性黒色腫治療薬 | Phase III（日本・海外）** |
| | ME3183* | PDE4阻害剤 | 乾癬治療薬 | Phase II（海外） |
| | HBI-8000 (ツジジノスタット) | ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) 阻害剤 | 再発・難治性B細胞性非ホジキンリンパ腫治療薬 | Phase Ib / II（日本）** |

*自社創製
**国際共同治験

医薬品：開発パイプライン-2

| | 開発コード名 | 薬効/作用 | 予定適応症 | 開発段階 |
|------|----------|-------|--|---|
| ワクチン | KD-370 | ワクチン | 百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型による感染症の予防（5種混合ワクチン） | 発売（日本）：製品名クイントバック水性懸濁注射用（2024年3月14日発売） |
| | ARCT-154 | ワクチン | 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（レプリコンワクチン：起源株） | 承認（日本）：製品名コスタイベ筋注用 |
| | コスタイベ筋注用 | ワクチン | 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（レプリコンワクチン：オミクロン株JN.1） | 一部変更承認申請（日本） ※ARCT-2301の成績を一部変更承認申請（オミクロン株JN.1）に使用 |
| | KD-414 | ワクチン | 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（成人・不活化ワクチン：起源株） | Phase III（18～40歳）**（日本） |
| | KD-414 | ワクチン | 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（小児・不活化ワクチン：起源株） | Phase III（6か月～11歳）（日本） |
| | KD-414 | ワクチン | 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防（小児・不活化ワクチン：オミクロン株） | Phase III（6か月～12歳）（日本） |
| | KD2-396 | ワクチン | 百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型、B型肝炎ウイルスによる感染症の予防（6種混合ワクチン） | Phase II（日本） |
| | KD-382 | ワクチン | デング熱の予防 | Phase I（海外） |

*自社創製
**国際共同治験

医薬品：開発パイプライン-3

| | 開発コード名 | 薬効/作用 | 開発段階 |
|--------|--------------|-------------|-----------------------------------|
| 動物用医薬品 | ME4137 | 抗菌性注射剤（牛） | 発売（日本）：製品名フォーシル （2024年5月27日発売） |
| | ME4137 | 抗菌性注射剤（豚） | 承認（日本） |
| | KD-412* | ワクチン（牛） | 承認（日本） |
| | MD-22-3002 | 抗炎症剤（牛、豚、馬） | 申請（日本） |
| | ME4305* | 抗菌性製剤（牛） | 開発中 |
| | MD-22-1001-1 | 抗菌性注射剤（牛） | 開発中 |
| | ME4406* | 飼料添加物 | 開発中 |

*自社創製

健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。